

ガイドブックに載っていない学校案内 ～第7回 東海大学付属望洋高等学校～

第7回は東海大学付属望洋高等学校です。

① 前期選抜の推薦条件について教えてください。

総合進学コースは単願が5科で17、9科で32。併願は5科で20、9科で36となります。

スーパー特進の推薦は単願のみで、5科で21となります。スーパー特進の併願の生徒は推薦が無い状態で前期選抜の入試を受けることとなります。また、全科目の評定に1と2が無いことと、3年生での欠席が10日以内というのも条件に入ります。ただし、この推薦条件は目安という扱いです。中学校3年間の学業、部活、生活態度などを総合的に評価して中学校から推薦してもらうようになります。そのため、評定が1か2足りない程度であれば推薦されることもあります。

② 選抜の可否は何を基準に決定していますか？

総合進学の場合、前期選抜で去年は不合格者を出しませんでした。中学校との入試相談や作文、面接の試験で生徒の入学の意志を確認し合格を出しています。ただし、あくまで試験なので絶対に落とさないということはありません。後期選抜ではその年の受験生の平均点や内申点などを考慮して合格のボーダーを決めています。

スーパー特進は、単願推薦・併願試験・総合進学との重複受験(単願・併願)などを合計して、50名が受験し合格は40名に出しました。入学は23名です。3科目(国・数・英)の筆記試験で去年は151点を合格のボーダーとしています。このボーダーはその年の平均点などを見て決めています。

③ 内申点が足りなくても、部活動の推薦をもらっていた生徒が何名もいたのですが、部活推薦をもらえる基準となるものはありますか？

推薦基準の内申点から-1か-2というのに大きな変更はありませんが、それでも内申点が届いていない生徒もいました。部活を熱心に取り組んできた生徒へは、その部活の顧問の先生が学習面についても熱心に指導してきたであろうと考えたうえで、推薦をしてもらっています。部活の大会結果は実はそこまで重要視していません。もちろん、良い成績を残しているのにしたことはありませんが。それよりも、入学後に苦学な勉強も頑張る部活との両立ができるのかどうかの人間性を重視しています。

- ④ 一般の高校では、大学入試を視野に入れて授業内容やレベルを設定しているのですが、附属高校である東海大望洋高校では、こういったレベルを想定した授業を行なっているのでしょうか？

総合進学コースでは全生徒が東海大学へ進学することを前提に授業を行なっています。そのため、文科省の指導要領に基づき、授業で身につかせたい内容やレベルを考えています。しかし、それよりも目の前の生徒達の状況を理解したうえで授業内容を決定することが重要だと、私たちは考えています。そのため、毎年授業のレベルは若干ですが変化します。もし中学校の基礎的な内容が必要なのであれば、それも取り入れながら授業を組み立てています。また、部活動で推薦された生徒を別クラスで授業するようなこともしておりません。その中で、補習が必要な生徒がいれば個別に補習を行なっています。学力を伸ばすための補習もあれば、努力が必要な生徒に強制的に受講してもらう補習もあります。

スーパー特進は東海大学の人気学部への進学とあわせて、国公立・早慶上智・MARCH クラスの外部大学への進学を前提としています。そのため、それらの大学の入試を視野に入れて授業をしています。しかし、総合進学と同様に生徒達の現状をよく考えたうえでの授業内容としています。かけ離れた目標のために無理矢理授業レベルを上げて、ついて来られない生徒をふるい落とすようなつもりはありません。

- ⑤ 昨年の総合進学コースの生徒の進路について教えてください。

216名の卒業生のうち、83%にあたる180名が東海大か系列の短大に内部推薦で進学しました。ちなみに今年の3年生もすでに内部推薦の内定が決定していて、86%の生徒が進路を決定しています。東海大学以外の4年制大学への進学が17名、短大が3名、専門学校が8名、就職が4名、浪人が4名となります。進路未決定者は全て浪人生となっているので、高校卒業後フリーターやニートとなる生徒はいませんでした。東海大学へ進学しない生徒ですが、基本的には高校入学後に経済的な理由で大学進学を断念しなければいけなくなってしまった生徒や、自宅から通える大学へ進路を変更しなければならなかった生徒です。他大学へ進学する場合には指定校推薦や学校推薦は原則として行ないません。ただし、AO入試や自己推薦入試を受ける際に必要となる調査書は発行しています。

他大学への学校推薦について例外が2点あります。まずは、東海大学に無い学部を受験する生徒、東海大学の医療系の学部の推薦に漏れてしまった生徒については、公募推薦などの受験の際に、推薦書を出す場合があります。もう一つが、国際武道大学への推薦です。国際武道大学は系列の姉妹校なので、内部推薦扱いで進学することができます。剣道部や野球部の生徒で進学する生徒が多いです。特に野球部は甲子園に出た年の生徒でも、東海大学の野球部に入部するのはとても難しいんです。そのため、国際武道大学の野球部や他大学の野球部、実業団の野球部を希望することがあります。

就職を希望する生徒ですが、毎年人数が少ないため、採用試験に向けて個別に対応するようになります。

⑥ 東海大学への進学を希望した場合、進学する学部はどのような仕組みで決まるのですか？

まず大事なことは、生徒自身がどんな仕事に就きたいのか、どんなことを学びたいのかということだと考えています。学部を決めるシステムよりも、そこに重点を置いて進路指導をしています。そのために、まずはキャンパスごとに大学への見学ツアーを毎年組んでいます。このツアーには保護者も多く参加されています。また、大学の教員も頻繁に本校へ来ています。内定が決まった3年生のために学部学科ごとに大学卒業までの学習内容の説明などを行なっています。その説明には1年生、2年生も参加することができます。

本校のカリキュラムも文系、理系の選択をするのは3年生になってからになります。2年生までは文理を問わずしっかり勉強して、3年生になってから大学での勉強に向けた文理選択をするようになっていきます。そのうえで、通常の定期テストなどの成績と附属高校全体で年に1度行なう学園基礎学力定着度試験の成績を総合して、上位の生徒から志望の学部と内部推薦を決定しています。昨年の卒業生は84%の生徒が第一志望、13%の生徒が第二志望、1.5%の生徒が第三希望の学部へ進学しました。

⑦ 東海大附属浦安高校の生徒と比べて、進学に対しての有利、不利はありますか？

内部進学システム上、どちらかが有利になるといったことは一切ありません。東海大浦安の在籍生徒の半分は都内から来ている生徒です。そのため、望洋よりも垢抜けた雰囲気のある学校です。望洋の生徒はどちらかというと、素朴で素直な生徒が多いです。そのためか大学の先生方からとても評判が良く、大学入学後に伸びる生徒が多いという話を聞いています。

⑧ 今後、スーパー特進に在籍しているだけで、内部進学へ有利になるようなことは想定していますか？

これは全く想定していません。努力を続けた総合進学の生徒が努力を怠った特進の学力を超えることは当然です。ただし、スーパー特進は土曜授業があり、総合進学よりも授業数が多くなっています。また、理科と英語をチームティーキングの形で授業をしています。総合進学のチームティーキングはOC(オーラルコミュニケーション、英文法・英会話中心の授業)のみとなります。それらのカリキュラムの違いから、スーパー特進の方がより深い学力を身につけやすい環境であると言えます。

⑨ 東海大附属の高校から東海大学へ進学することのメリットは何ですか？

下世話な話になるのですが、東海大学は以前よりも入りやすくなってきたと言われていますが、誰でも入れる大学というわけでも無いんですね。昨年度は千葉県内の付属以外の高校生が1017名受験し、347名しか合格していません。望洋からは168名が推薦で入学しています。やはり東海大学に入りやすいというのが一番のメリットです。もちろんそれだけではなく、自分の将来をしっかりと見据えた進路選択をして、部活動をしっかりとやってコミュニケーションの能力を身につけた附属高校の生徒達は大学生活でもより一層、成長することができると思っています。

⑩ 災害などに対しての、学校独自の対策はありますか？

まずは今年の震災を受け、防災訓練の回数を増やしています。また、保護者、生徒との連絡手段を全面的に見直しました。NTT と相談し、全生徒、保護者の携帯もしくは自宅のパソコンメールでの連絡が可能になっています。災害などの緊急時はもちろん、通常時も電車の遅延などがあったときに利用しています。学校の立地を考えると、災害が起こったときにおやみに生徒を帰すよりも学校内にいた方が安全な場合も多いため、保護者との連絡をとったうえで生徒を帰すようにしています。

その他には校内に防犯カメラを設置し、教職員は全員 ID カードを首からさげて不審者への対策を取っています。近隣に不審者が出た場合にも、教職員がすぐに見回りに出て、警察との協力体制を取りながら対応しています。

⑪ 東海大学付属望洋高校へ入学したら「こういう事を学べる、こういう人間に成長できる」と学校が約束できることはありますか？

学習、部活動、学校行事などを通してバランスの取れた人間形成をしてもらいたい。これが一番に目指しているところです。受験指導を主体とした学校教育では無い環境だからこそ、それが可能なのだと思います。そして、偏差値で進学先や将来を決めるのではなく、自分の適性を考えて進路選択ができることも附属高校だからこそできることです。将来のことをじっくりと考える時間というの、人間的に成長するための大事な時間だと思います。「東大合格は〇名です」といった、一部の生徒に注目をしたコマーシャルをするつもりはありません。今年度、本校の部活加入率は 86%でした。東海大学への進学率も 86%です。受け入れた生徒はみんなに勉強も部活も頑張らせて、第一志望の進路へ進めさせてあげられるような学校であることを大事にしたいと考えています。それだけではもの足りないという生徒の希望を補うために、2010 年度からスーパー特進コースを設立させて頂いています。